

あなたたちの声は、私たちに確かに届いた。『北野小学校学芸会』

北野小学校長 丹羽 郁人

令和四年十月二十二日、舞台の上で、子供たちは、歌い、演じ、舞った。表現し、伝え、訴えかけた。全身で表現する喜び。相手に伝わる嬉しさ。達成感、そして、充実感。幕は下りた。あたたかい拍手。やりきった表情で舞台を降りた。「北野小学芸会」である。

子供たちは、学びを通して、様々なものを作り上げてきた。そして、練習を重ねるたび、子供たちは、大きく、大きく変わった。棒読みの台詞は、やがて、自信に満ちた「演技」となった。ばらばらの音は、やがて、一体感のある「演奏」となった。味気ない材料は、やがて、味わいのある「作品」となった。

七月。学芸会を行うにあたって、その三つの目標を全校の教職員で再確認した。

- 1 言語、身体、歌、楽器演奏などで表現する楽しさ、素晴らしさを実感させる。
- 2 作品をみんなで創っていくという、表現的・創造的な集団活動の楽しさ、素晴らしさを体験させる。
- 3 平素の学習の成果を相互に交流させる。

改めて目標を見つめ直し、それが達成できたか自問してみる。できたと思う。



表現するって、楽しいなあ、それが相手に伝わることって、もっと楽しいなあ。その楽しさも、素晴らしさも北野小の子たちは味わえたと確信している。

一人で作るのではなく、みんなで作る。

みんなで作るのは大変だ。考え方も、感じ方も、それぞれ違う。温度差だってあるに違いない。でも、でもね、一人で作るのも楽しいけれど、みんなで力を合わせてつくり、それができたときにみんな喜び合える。それはもともと楽しいなあ。それはわくわくするほど楽しいなあ。そう思ってくれたに違いない。

それぞれの担任は、目の前の子供たちの特性や発達段階を考え、悩みに悩んで題材(台本)を選びをした。そして、そして一か月あまり、子供と共に歩んだ。作品の持つメッセージ性に重きを置いた。子供自身が工夫して創り上げていくことに重きを置いた。物語の読み取りの深さに重きを置いた。日本語の奥深さ、力強さ、素敵さに着目することとに重きを置いた。重きの置き方はそれぞれの学年・学級で違えども、確かなことは、子供たちが大きな歩みを続けたことだ。

家で台本を読み直す。せりふの意味を見つめ直す。休憩時間に楽器の練習をする。どんな発声なら伝わるのか?どんな表情を見せるべきか?子供たちは、悩み、考え、時には立ち止まり、それでも、大きな歩みを続けた。そして、そこには、子供たちの変容・成長があった。

子供の成長がいちばん嬉しい。

そして、その変容・成長を我がごとのように喜ぶ、北野小教職員すべての思いが、尊い。

子供が成長する。そして、経験の浅い先生たちも成長していく。すべての子供にスポットライトを当て、子供とともに完成を喜ぶ北野小の職員。私は、誇りに思う。

それを教えてくれたのは、あなたたち、北野小学校の子供たちにほかならない。

学芸会

十月二十二日(土)

音楽部 鈴木 美優

私たちは、コロナ禍で部活動を始めたので、思うように練習ができませんでした。なかなか先輩たちのように吹けるようにならなくて、うまく演奏できるようになるのか心配でした。ですが、先輩たちは、私たちにとてもいいに教えてくれました。そのおかげで、最後の学芸会では、ソロでの演奏ができるくらい上達することができました。音楽部はこれで引退ですが、また楽器を吹きたいです。



一年一組 あおき しおん

学ばいはいは、どきどきしました。でも、はりきってやったら、たのしかったです。ぶたにいたとき、大きなこえで、せりふをいえました。一ねんくみのげきが、一ばんたのしかったです。



二年一組 いな こころ

わたしは、げき「よろぼう学校」でナレーターをやくをしました。げきの中で、わたしは、自分でかいた小道具のミニスクをおきやくさんの目をひきつけるように、高く頭の上にあげました。さいしよは、どきどきしたけれど、少しずつなれてきました。クラスのみんなでがんばれたので、楽しかったです。



三年二組 松川 侑里香

わたしは、学ばい会でタンバリンをたんとしました。さいしよは、「えっ、なにこれ。できるかな。」と思いました。それでも、タンバリンのたんととの友達と助け合って、みんなでれんしゆうを続けました。だんだんできるようになってきて、「すごい。できるんだ。」と、感動しました。時々けんかになって暗い気持ちになったこともあったけど、また学ばい会をやりたいです。



四年三組 亀井 晏菜

四年生は、「こんぎつね」をシユブシヒコールげきで発表しました。四年生九十六人全員でせりふを言うので、合わせるのがたいへんでした。何度も練習を重ねて、やっと合わせる事ができるようになりました。本番では、心ぞうの音しか聞こえないほどきんちようしましたが、さいごまで楽しくできたので、よかったです。次の学芸会でも楽しんでみます。



五年三組 太田 七彩

私が学芸会で一番がんばったのは、なわとびとたいこの演奏です。なわとびでは、なわから出るときに、足が引っかけたてしまい、くやししい思いをくり返しました。でも、みんなでカバーをして、演技がとぎれないようにつなげてくれて、なんだかすこいな、と思えました。たいこは、リズムや速さがむずかしくて困っていたら、友達がいっしょに練習してくれました。きんちようの中の本番、みんなできり切った学芸会でした。



六年三組 清水 拓翔

三年ぶりの学芸会。僕は緊張していました。「大人会議」という題名を聞いた時、とてもわくわくしました。ぼくは、総理大臣の役でした。練習が始まると、マスクが外せず、恥ずかしくて思い切り演技ができない人もいました。しかし、クラスのみんなで見せ合ったりする中で、どんどん劇がよくなっていくのを感じ、いいクラスだなと思いました。みんなで力を合わせてがんばることの大切さを知ることができた学芸会でした。



表彰

○ 少年消防クラブ防火作品展

岡崎市教育委員会賞

【習字の部】

五年 日下部 友梨

○ 「家庭の日」啓発ポスターコンクール
優秀賞

一年 穴井 羚

四年 穴井 陽菜乃